

ホームID	ホーム名		法人名		評価日
2832	佐倉ゆうゆうの里		一般財団法人日本老人福祉財団		H28.12.28
評価機関	特定非営利活動法人あい・ライフサポートシステムズ(京都)				H29.1.24

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	A
1.4.1	A	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	A	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	B	B	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	A	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	A	A	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
2-3-3 2-3-4	<p>「サービスの質の向上」への取り組みとして、入居者に直接関わるケアサービスや生活サービスを担当する職員のみならず、厨房や設備維持管理、更には事務担当職員に至るまで、全ての職員が日常的な実践研究活動として自分たちがテーマを出しあって自発的に取り組まれています。そして、それらの進捗については毎月開催されている委員会でチェックされています。その上で、これらの実践研究の内容は小冊子にまとめられて全国の著名書店を通じて発信されています。「入居者ニーズの把握」としては、“施設の中は『どこでも相談室』”という認識のもと、入居者相談委員会を設けてニーズの集約に努め、今年度としては300件の目標件数に対して全体の受付件数としては383件と予想を遥かに超えたものになっています。</p>
2-3-5	<p>従来細則に基づくホーム主導の運営懇談会（奇数月）に加え、運営懇談会を補完する形で入居者側から普段着の話をする場を設けてほしいとの要望で始まった「入居者懇談会（偶数月）」を開催しています。入居者懇談会では、参加者として施設長、各課課長、施設維持担当主任と入居者で構成され、事業収支など経営内容も報告され、入居者の意見を吸収しつつ入居者同士も交流を持てる良い機会になっています。ここでは、議事録を作成されない自由さが確保されており、入居者相互で自由快活な意見が交わされ、ホームとしても事後の運営に活かされています。</p>
5-2-1	<p>「摂食支援」の一助として、ケアプランから入居者の個別事情を把握し、ゆうゆうの里では他のホームに先駆けて『佐倉』が、食のバリアフリー化を実現する為、嚥下機能が落ちた入居者へ「見た目そのままのとろけるやわらか食」（凍結含浸食）を採用し、自社厨房にて「やわらか食」の作成を通常の食事費用の中で実施しています。現在では初期の夕食だけでなく3食提供を実施し入居者の満足度アップと、他施設への展開に向けて取り組まれています。やわらか食を導入したことで、入居者の食べる意欲が増し、“食事をした”という満足感が残食減として表れています。</p>
7-5-6 7-5-7	<p>“ひだまり”と呼ばれる認知症の方が安心して過ごせるデイルームが確保されています。ここでは、毎日、体操やレクリエーションが実施されており、認知症入居者の方々にとっての楽しみの一つになっています。当ホームでは数多くのサークル活動が行われており、認知症のある、なしに関わらず、全ての入居者がサークル活動を通じての交流を深めています。また将来の住み替えを考え、自立の入居者も介護棟に訪れることが増えてきており、音楽療法を取り入れた「ドレミの会」では、介護棟の入居者とのコミュニケーションを図る良い機会になっています。更に、入居者向けに認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症の方への対応や、認知症予防についての啓発活動が活発に行われています。</p>
7-6-3	<p>服薬支援は看護師を中心に行われています。服薬マニュアルは配薬から与薬までの手順が定められており、服薬チェック表には、「錠数、包数のチェック」、「服薬介助方法」（手の平・ゼリー・声かけ・口の中）と「服薬確認方法」（声かけ・口腔内確認）、が、入居者一人ひとりへの支援方法として記載されており、飲み込みの確認後には空き袋のチェックを行うことで、誤薬防止に努めています。</p>